



### 勝山中学校 思春期講座

## 思春期の脳と心 ～どうつきあい、どう楽しむか～



坂本玲子先生

勝山中学校において、山梨県立大学の坂本玲子先生を講師に招いて思春期講座が開かれました。先生は、中高生や大人向けにたくさんの講座を開いています。今回は「思春期の脳と心 ～どうつきあい、どう楽しむか～」と題して中学2年生を対象に授業をしてくださいました。

#### <どうつきあうか>

●皆さんぐらいの時は、女性ホルモン、男性ホルモンの分泌がはじまることで心身が不安定になりやすいことから一番イライラする時期●親の言うことに反発する。

親にはガンガン言うけど外の人とは普通に接する。それは普通のこと。●心身が成長するときなので、親が手を出しすぎると自立できない。親の手を出す量が減ることで子どもは自立する。●脳の中の感情を司る扁桃体と、記憶を司る海馬が近くにあるため、嫌な経験ほど記憶しやすい。新しい良い経験をすると嫌な記憶が上書きされる。それが繰り返されると嫌な記憶は消えていく。

#### <どう楽しむか>

●自分のマイナスだと思う部分をプラスに思えると強くなれる。私も子どもの頃、自分の短所だと思っていた性格を担当の先生が長所だととらえてくれたことがきっかけで変わった。●友だちの良い面をたくさん見つけて、良い面ばかり伝えてやるとプラスに働く。

#### <SNS で気を付けてほしいこと>

①SNS は同じような意見で固まって、他を知ることができなくなるかもしれない。②必要以上にプライバシーを公開してしまう可能性がある。③書き込んだ内容は、書き込んだ本人が自分の端末で消したとしても、別の誰かの端末に残っている。④怪しいリンク（ワンクリック詐欺、フィッシング詐欺など）に誘導される危険性がある。⑤信憑性のない情報、著作権・プライバシーの侵害、匿名の悪用、依存性などの問題がある。→いろいろな人と話すことで新しいことが生まれる。生の声をきく方が絶対良い化学反応がおきる。もっと人と関わろう。



真剣に話を聞く生徒の皆さん



全力で子どもたちに語る坂本先生の授業

坂本先生は、思春期という発達段階に触れながら、いろいろなことがあってもポジティブに考えてやっていくことの大切さを様々な角度から指導してくださいました。

全力で楽しく話してくださる姿に、中学生も釘付けの様子でした。先生の話自分を自分と重ねながら聞いていたのではないのでしょうか。きっと強く心に響いたことと思います。

## 英語教育改善プラン推進事業 公開研究会 小立小学校

### 「オリジナルピザを作るために、たずねたり答えたりしよう」

小立小学校では、山梨県教育委員会より「英語教育改善プラン推進事業」の指定を受けました。研究主題を【「すべての児童が『わかる・できる』を実感できる授業の創造」～「指導と評価の一体化」を図るための学習評価を通して～】と設定し、3年間に渡って研究を行ってきました。研究3年目となる今年、10月20日（木）に今年最初の公開授業を行いました。

授業者は4年2組担任の横小路聡先生。サポート役はALTのブライアン先生。28名の子どもたちが「レッツスタート」と言って始まった授業はあっという間に45分が過ぎたと感じるほど充実した内容でした。



できあがったピザを友達に紹介する場面

- A: What do you want?  
(何がほしいですか)  
B: I want (生地の種類).  
(3種類から選べます)  
A: What do you want?  
B: I want (食材の種類),  
please.  
(16種類から選べます)  
A: How many?  
(いくつほしいですか)  
B: (数), please.  
A: OK.

本時のめあては『オリジナルピザを作るために、たずねたり答えたりしよう。』です。隣同士でペアを作り、お客さん役とお店屋さん役に分かれて会話をします。

お店屋さんは、①生地の種類②のせたい食材の種類③その食材の数について聞きます。お客さんは自分の好みで答えます。

お店屋さんは注文をもとにタブレット端末を操作し、画面の中で注文されたピザを作ります。そして、できあがったピザを友達に紹介します。

横小路先生がピザ屋を経営している設定で「先生をつぶれそうなピザ屋を救ってほしい。人気なピザ屋にしたい。」と投げかけると、『先生のためならば』と言わんばかりにやる気満々で活動する子どもたちの姿がありました。

タブレット端末の活用により、視覚的に分かりやすくやり取りや発表ができ、子どもたちの意欲化につながっていました。また、本単元では中間指導にも重点を置き、伝え合う相手を意識したコミュニケーションが成り立つよう

に、反応を確かめたり、感じたりしながら、伝え合う姿を評価づけていました。

子どもたちが楽しそうに英語で話したり、発表したりすることができたのは、日頃の英語指導によるものです。また、安心して表現できる温かいクラスの雰囲気土台となっていたのではないのでしょうか。素晴らしい学級経営をされている横小路先生の外国語活動の授業からたくさんのことを学ばせていただきました。

3年間に渡って研究を進め、大きな成果を発表してくださった小立小学校の先生方、大変お疲れさまでした。今後も町内の外国語教育の中心的な役割を果たしていただければと思います。



隣同士注文をもとにタブレット端末を操作してピザを作る場面

